みずほマーケット・トピック（2021 年 5 月 14 日）

内容　1．為替相場の動向　　2．来週の注目材料
※誠に恐れ入りますが、「3．本日のトピック」はお休みさせて頂きます。

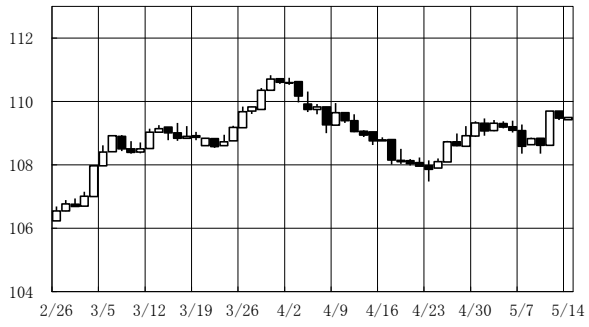
1．為替相場の動向（関連レポート：「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」）

- 今週のドル/円相場は週後半にかけて上昇する展開となった。週初 10 日、108 円台半ばでオープンしたドル/円は、先週末に米 4 月雇用統計が公表されて以降低下していた米金利が徐々に元の水準にまで戻る動きを受けて小幅に上昇した。その後も追加材料はないものの底堅い推移となった。11 日は仲値にかけて 109 円に迫る局面があったが、日経平均株価が下落したことを受け、上値の重い値動きとなった。その後も米国のインフレ加速への懸念から米国株式市場も軟調地合いとなったことからリスクオフの円買いが進んで一時週安値の 108.35 円まで下落した。12 日は、米金利が高止まる中、ドル/円はじりじりと値を上げた。米国時間には 4 月 CPI が発表され予想を上回る結果となると、雇用統計で後退していた FRB の金融緩和の縮小への期待が高まり、ドル/円は 109 円台半ばまで急伸した。13 日は、前日の流れを受けて、一時週高値の 109.78 円まで上昇した。しかしその後は本邦輸出企業のドル売りや、米国時間での米金利の下落によってじり安の展開となった。本日は 109 円台半ばでの取引となっている。
- 今週のユーロ/ドル相場はじり安の展開となった。週初 10 日、1.21 台半ばでオープンしたユーロ/ドルは、狭いレンジでの推移が続いたが、後半に米金利が騰勢を強めたことでドル買い優勢となって 1.21 台前半まで値を下げた。11 日は、独 5 月 ZEW 景気期待指数が予想を上回り、ロックダウンからの景気回復への期待が高まるとユーロ/ドルは一時週高値の 1.2181 まで上昇。しかし、ドルの動きも堅調だったこともあり、その後は小幅に下落した。12 日は、前日の流れを受けて軟調地合いとなった中、米 4 月 CPI が予想を上回る結果となると米金利の上昇が加速し、ユーロ/ドルも下げ幅を拡大し、1.21 を割り込んだ。13 日は、欧州諸国の休日で取引が閑散であった中、米金利が前日の水準から低下したことで一時 1.21 台を回復した。しかし買い一巡後には一時週安値の 1.2052 まで下落する局面も見られ、その後はやや方向感に欠ける動きとなった。本日のユーロ/ドルは 1.20 台後半での取引となっている。

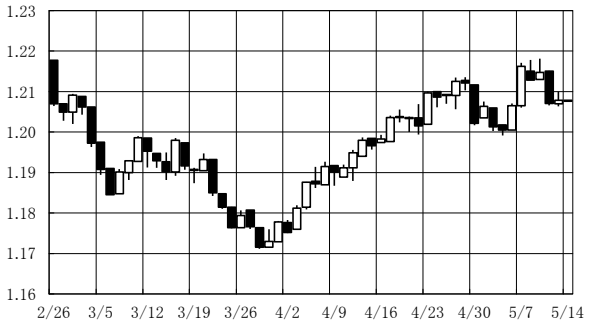
今週のおもな金融市場動向（出所：ブルームバーグ、みずほ銀行）

		前週末	今週			
		5/7(Fri)	5/10(Mon)	5/11(Tue)	5/12(Wed)	5/13(Thu)
ドル/円	東京9:00	109.05	108.58	108.85	108.72	109.67
	High	109.28	109.05	108.98	109.71	109.78
	Low	108.34	108.47	108.35	108.62	109.41
	NY 17:00	108.58	108.83	108.62	109.70	109.45
ユーロ/ドル	東京9:00	1.2065	1.2170	1.2142	1.2145	1.2078
	High	1.2171	1.2178	1.2181	1.2152	1.2106
	Low	1.2053	1.2128	1.2123	1.2066	1.2052
	NY 17:00	1.2163	1.2128	1.2148	1.2071	1.2079
ユーロ/円	東京9:00	131.55	132.19	132.15	132.07	132.50
	High	132.17	132.52	132.45	132.39	132.69
	Low	131.55	132.04	131.79	131.68	132.05
	NY 17:00	132.08	132.04	131.96	132.38	132.25
日経平均株価		29,357.82	29,518.34	28,608.59	28,147.51	27,448.01
TOPIX		1,933.05	1,952.27	1,905.92	1,877.95	1,849.04
NYダウ工業株30種平均		34,777.76	34,742.82	34,269.16	33,587.66	34,021.45
NASDAQ		13,752.24	13,401.86	13,389.43	13,031.68	13,124.99
日本10年債		0.08%	0.08%	0.07%	0.08%	0.09%
米国10年債		1.58%	1.60%	1.62%	1.69%	1.66%
原油価格(WTI)		64.90	64.92	65.28	66.08	63.82
金(NY)		1,831.30	1,837.60	1,836.10	1,822.80	1,824.00

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

・ 米国では 20 日(木)に FOMC 議事要旨(4 月会合分)が発表される。4 月会合ではこれまでの大規模緩和の継続を決定した。FRB は足許の物価上昇は一時的としながらも、経済活動と雇用の指標は強さを増したと総括している。米国経済は春先にかけて、新型コロナウイルスのワクチン接種が進展し、製造業・サービスともに景況感の改善が続いているほか、会合直後に公表された 1～3 月期 GDP では前期比年率+6.4%と 3 四半期連続での増勢を維持した。こうした中、バイデン米大統領は正常化の節目を独立記念日の「7 月 4 日」としていることからも、市場では量的緩和の縮小(テーパリング)の可能性を指摘する声も挙がった。しかし、パウエル FRB 議長は会合後の会見でこうした考えに慎重な姿勢を示した。とは言え、4 月 CPI の結果を受けてテーパリング早期実施への期待は再燃しており、議事要旨での FOMC メンバーの現状の見解については整理しておきたい。

・ 本邦では 18 日(火)に 1～3 月期 GDP(速報)の発表を控える。10～12 月期 GDP(修正値、以下同様)は前期比+2.8%(前期比年率+11.7%)となり、7～9 月期に続いてプラス成長となった。主な内訳をみると、個人消費が前期比+2.2%増加した。年末にかけて減速したものの、Goto キャンペーンが景気を下支えした。また、輸出の回復も継続しており、前期比+11.1%の高い伸びを記録した。また、コロナ禍で落ち込んでいた設備投資が前期比+4.3%と 3 四半期ぶりにプラスとなった。一方、1～3 月期に関しては、年初に緊急事態宣言が再発令され、Goto キャンペーン中止の反動が予想されること、国内でのワクチンの接種ペースが遅く感染拡大が長期化している状況から、対面型サービスをはじめ個人消費の減速が再度懸念される。特にワクチンの接種に関しては、先進国内でも最も接種率が低く、4～6 月期以降の景気回復にも影響が出る可能性もある。なお、ブルームバーグの事前予想では前期比▲1.1%(前期比年率▲4.5%)と見込んでいる。

	本　　邦	海　　外
5 月 14 日(金)	――――――――――――	・米 4 月小売売上高 ・米 4 月鉱工業生産 ・米 5 月ミシガン大学消費者マインド（速報）
17 日(月)	・4 月工作機械受注（速報）	・米 5 月 NY 連銀製造業景気指数
18 日(火)	・1～3 月期 GDP(速報)	・ユーロ圏 1～3 月期 GDP(修正値) ・米 4 月住宅着工件数
19 日(水)	・3 月鉱工業生産（確報） ・3 月設備稼働率	・ユーロ圏 4 月 CPI(確報) ・ユーロ圏 ECB 金融安定報告書 ・米 FOMC 議事要旨（4 月会合分）
20 日(木)	・4 月貿易収支 ・3 月コア機械受注	・ユーロ圏 3 月経常収支
21 日(金)	・4 月全国 CPI ・5 月製造業/サービス業 PMI(速報)	・ユーロ圏 5 月製造業/サービス業 PMI(速報) ・ユーロ圏財務相会合（ユーログループ）

【当面の主要行事日程(2021 年 5 月～)】

ECB 政策理事会（6 月 10 日、7 月 22 日、9 月 9 日）
FOMC（6 月 15～16 日、7 月 27～28 日、9 月 21～22 日）
日銀金融政策決定会合（6 月 17～18 日、7 月 15～16 日、9 月 21～22 日）

市場営業部・金融市場部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html （Archives） http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2021年5月13日	インフレ懸念で米金融政策は動きそうか？
2021年5月12日	連動が戻り始めた米株価と米消費者心理
2021年5月11日	スコットランド独立を巡るQ&A～現状と展望～
2021年5月10日	最近の為替市場に見る「正常化の胎動」
2021年5月7日	週末版（FRBの対話を阻害してしまうイエレン長官の存在～避けたい「院政」状態～）
2021年5月6日	明暗が鮮明になった「米国 vs. ユーロ圏＆日本」
2021年4月30日	週末版
2021年4月27日	「成長痛」に直面しそうな新興国はどこにあるか？
2021年4月26日	年後半に警戒したい金融市場の「成長痛」
2021年4月23日	週末版（ECB政策理事会を終えて～6月、テーパリングと曲解されるリスクを警戒～）
2021年4月21日	ユーロ圏銀行貸出態度調査～与信環境の厳しさは継続～
2021年4月20日	調整色が強まってもワクチン相場の核心は変わらず
2021年4月19日	為替政策報告の読みから～イエレン長官の思惑は～
2021年4月16日	週末版（長きにわたる正常化プロセスの始まりか～まずはパウエルショックの回避が至上命題～）
2021年4月14日	多様化が進む世界の外貨準備～ドル離れが顕著に～
2021年4月13日	ユーロ相場の展望～盤石の需給が支えに～
2021年4月12日	近年の「年間値幅」をこなしたドル/円相場の今後
2021年4月9日	週末版（GFSRも懸念する世界経済の「成長痛」～中長期的に拡がる「金利の無い世界」のフロンティア～）
2021年4月7日	IMF世界経済見通しが示す新興国の憂鬱
2021年4月6日	暗雲垂れ込めるアフターメルケルのドイツ政治
2021年4月5日	米3月雇用統計の読み方～長期失業者割合は上昇～
2021年4月2日	週末版(欧州で台頭するワクチン・ナショナリズム～EU 離脱を象徴するワクチン戦争～)
2021年4月1日	ラガルドECB総裁、「挑発」の真意はどこに？
2021年3月29日	リスクシナリオの点検～上下のリスクを検討する～
2021年3月26日	週末版(現状を理解するための3つのテーマ「金利」・「コロナ抑制状況」・「原油」～「需給」は小休止～)
2021年3月25日	ドイツ州議会選挙に見る「移民から環境へ」のシフト
2021年3月22日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2021年2月分）
2021年3月19日	週末版(「実質金利ゼロ」が次の節目？～ハイライトは4～6月期か？～)
2021年3月18日	FOMCレビュー～現状維持に見る強気の足音～
2021年3月16日	FOMCプレビュー～ドットチャート＆議長会見～
2021年3月15日	期待の米国、不安の日本～コロナ対応の明暗～
2021年3月12日	週末版(ECB政策理事会を終えて～significantly higher paceの解釈～)
2021年3月11日	ECB政策理事会プレビュー～PEPPの加速を示唆へ～
2021年3月9日	年初来の為替市場から見える「今年のテーマ」
2021年3月8日	好調な米2月雇用統計にも見逃せない危うさ
2021年3月5日	週末版
2021年3月4日	英ポンド急騰の背景～経済対策、ワクチン、成長率～
2021年3月3日	米金利に連られたユーロ圏金利～ECBは容認できず～
2021年3月2日	「鏡に映った自分」に惑うFRB～前提が変わった2か月間～
2021年2月26日	週末版(米10年金利の1.60%台到達を受けて～パウエルショック～)
2021年2月25日	マネーサプライを見てインフレ語れず～パウエル公聴会～
2021年2月22日	「民間部門の貯蓄過剰」は今後の「マグマ」なのか？
2021年2月19日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～明記された「ユーロ高反転」～)
2021年2月18日	動き始めた米実質金利への懸念～10年1.3%到達を受けて～
2021年2月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2021年1月分）
	アフターコロナを予感させる米国のインフレ論争
2021年2月15日	ドラギ新首相誕生について～「挙国一致」と「寄せ集め」の狭間～
2021年2月12日	週末版(下がらない実質金利とイールドスプレッドの現状～やはり気になる「米10年金利1.5%」という節目～)
2021年2月9日	円相場の需給環境～貿易均衡国という新常態～
2021年2月8日	試される「双循環」～人民元の上昇は容認されるか～
2021年2月5日	週末版(なぜユーロ圏消費者物価指数（HICP）は急騰したのか？～一過性のまやかし～)
2021年2月4日	最悪の落ち込みとなった2020年のユーロ圏経済
2021年2月2日	イスラエルリスクをどう考えるか～世界の実験室～
2021年1月29日	週末版(マイナス金利深掘りを示唆し始めたECB～その理由はどこに？～)
2021年1月27日	米10年金利はどこまで上がりそうか？
2021年1月25日	最悪となった2020年のユーロ圏物価情勢
2021年1月22日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「次の一手」はYCC？～)
2021年1月20日	「強いドル」とは言わなかったイエレン新財務長官
2021年1月19日	直接投資減少で緩むドル/円相場の「地盤」
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2020年12月分）
2021年1月18日	金融市場はバイデン新政権をどう見ているのか？
2021年1月15日	週末版(ECB政策理事会議事要旨～ラガルド流が試されるのは昨年よりも今年～)
2021年1月13日	実質金利の上昇はどこまで容認されそうか？
2021年1月12日	米12月雇用統計の読み方～ヘッドラインに引きずられずに～
2021年1月8日	週末版(早速乱れ始めたFRBのフォワードガイダンス～いつも通りの済し崩し～)
2021年1月7日	緊急事態宣言の再発出で強まる貯蓄という正義
2021年1月5日	遂に2%に到達した米国のインフレ期待
2021年1月4日	低金利が招く格差拡大・為替の静寂・株の喧騒
2020年12月28日	英EU「新たな関係」合意を巡るQ&A
2020年12月25日	週末版
2020年12月24日	やっぱり狭かったドル/円の値幅～3つの背景～
2020年12月23日	期待指数に薄日も差し込んできた米消費者マインド
2020年12月21日	2021年も続く「金融市場と実体経済の乖離」
2020年12月18日	週末版(為替政策報告書を受けて～垣間見える「まだ、ドル高」の本音～)
2020年12月17日	FOMCを終えて～約束された「金利差なき世界」～
2020年12月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2020年11月分）
2020年12月15日	イエレンダッシュボードで見る米雇用の現状
2020年12月14日	ドル安の裏側には何があるのか？～元、ユーロの存在～
2020年12月11日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「中途半端」でユーロ高抑制できず～)
2020年12月10日	「イエレン次期財務長官と為替」というテーマ
2020年12月8日	前門のブレグジット、後門の次年度予算
2020年12月7日	米労働市場の抱える怖さ～長期失業者の増加～
2020年12月4日	週末版(FRBが直面するインフレ期待上昇～2021年の政策運営に影響必至か？～)
2020年12月2日	過去に類例のない物価低迷に直面するユーロ圏
2020年12月1日	実質金利とドル/円相場にまつわる議論について
2020年11月27日	週末版(緩和の「収穫逓減」に触れたECB～やればやるほど意味が薄れるリスク～)
2020年11月25日	拡大し続ける実体経済と金融市場の距離感
2020年11月24日	ECBの振りかざす「2段階アプローチ」とは
2020年11月20日	週末版(「円高ではなくドル安」という葛藤～日本の政治・経済にとってのリスク～)